

首都大学東京 学士課程教育

「学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」

プログラムの名称：都市環境学部 建築都市コース

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

（1）取得できる学位

学士（工学）：卒業を要件として取得できます。

（2）取得できる資格

① 卒業することで取得できるもの

- ・ 該当なし

② 卒業することで受験資格を得られるもの

- ・ 一級建築士受験資格：

国土交通省が定める指定科目を履修し、一定の実務経験を経て、得られることとなります。

- ・ 二級建築士受験資格：

指定科目を履修することで受験資格が得られます。

- ・ 一級建築施工管理技士受験資格：

卒業後、実務経験3年で、得られることとなります。

③ 別に定められた課程を修めることで取得できるもの

- ・ 高等学校教諭一種免許状（工業）：

定められた教職に関する科目と教科に関する科目の単位（講義・演習・実習）の修得ならびに、卒業を要件として、教員免許状が取得できます。

④ 卒業することで一部の試験科目が免除になるもの（主な資格に限る）

- ・ 該当なし

（3）育成する人材像

建築都市コースでは、建築全般の幅広い知識と技術を有するとともに、東京をはじめとする大都市の都市環境における建築的諸問題および関連する都市的諸問題に積極的に取り組む建築家、都市計画家、設計者、技術者などの職業専門家と教育・研究者を育成します。

(4) プログラムの特色

首都大学東京の建築都市コースは、他大学の建築学科にはない特色があります。単体の建築だけでなく、都市空間を含めた都市環境全体について考えるコースであるということです。一般の建築学はもちろん、都市に関する理論や技術も総合的に学び、さらにそれを活用する人間との関わりも総合的に理解し研究する、かなり贅沢なコースです。

また、首都大学東京の建築都市コースは、今建っている既存の建築ストックを活かした都市づくりにも積極的で、建築ストックを活かすための総合的な技術開発を通じ、国際的にも高い評価を得ています。これからの建築都市コースの授業や研究にもその最新の成果が活かされていくでしょう。

建築の集合体であると同時に、数多くの人々が生活し、あるいは経済活動に従事している都市空間には、さまざまな顔があり多くの今日的な課題を抱えています。そのため、建築と都市空間を学問対象とする本コースでは、建築都市に関わる幅広い知識を体系的に修得できるよう、建築計画、建築歴史・意匠、建築構造、建築環境・設備、建築生産、都市空間・計画などに関連した科目があり、1年次では導入科目、2年次に主として基礎科目、3,4年次で応用・発展科目を受講することができます。また、科目には講義科目と演習・実験科目があり、特に、演習・実験科目では、大学としてはトップクラスの充実度を誇る学内施設を使つての実験や、東京というロケーションの優位性を最大限に活かした、新しい都市空間を構成する超高層ビルなど最新の建築見学や伝統的な木造住宅市街地の街歩きなど、首都大学東京ならではの特色あるカリキュラムが用意されています。

(5) 獲得すべき学習成果

建築都市コースを修了して「学士（工学）」を授与される学生は、以下のような能力を有します。

- (A) 人文科学・社会科学・自然科学・工学全般にわたる幅広い知識・理解
- (B) 技術倫理・環境倫理を理解し、モラルを持って行動できる能力
- (C) 自然科学に対する基礎的学力・応用力
- (D) 建築・都市に関する専門知識
- (E) 専門知識を生かした問題発見・解決能力
- (F) プロジェクト遂行能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 生涯にわたり持続的に学習できる能力

(6) 卒業要件

建築都市コースの卒業要件は、以下の通りです。

1. 都市環境学部規則に示された単位修得条件を満足すること。
2. 全学共通科目のうち、基礎科目群では、基礎ゼミナール、実践英語（Ⅰa, b, c, d・Ⅱa, b, c, d）、情報リテラシー実践Ⅰは必修科目である。また、情報リテラシー実践ⅡA、ⅡB、ⅡCから2単位以上を修得すること。
3. 全学共通科目のうち、基礎科目群では、未修言語科目8単位以上、理系共通基礎科目16単位以上を修得すること。未修言語科目は、ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ、朝鮮語Ⅰから選択すること。理系共通基礎科目のうち、微分積分Ⅰ、微分積分Ⅱ、線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、および「教養基礎物理Ⅰ・教養基礎物理Ⅱまたは初等物理Ⅰ・初等物理Ⅱ」は必修科目である。なお、教養基礎物理Ⅰ・Ⅱと初等物理Ⅰ・Ⅱの内容は重なっており、両者を受講することはできない。
4. 全学共通科目のうち、教養科目群・基盤科目群(基礎科目群のキャリア教育科目を含む)では、16単位以上を修得すること。統計学Ⅰ、統計学Ⅱは必修科目である。
5. 建築都市コース専門教育科目76単位以上を修得すること。
6. 建築都市コース専門教育科目のうち、建築設計製図Ⅰ、建築設計製図Ⅱは必修科目である。選択必修科目A（講義科目群15科目34単位）から26単位以上を修得すること。選択必修科目B（実験科目群3科目6単位）から4単位以上を修得すること。

なお、本学在学生在が卒業要件を確認する場合は、必ず入学年度発行の履修の手引きを参照すること。

上記を表に整理すると以下の通りです。

(別表) 建築都市コースの卒業要件

学士の学位取得(卒業)には130単位以上の単位の修得が必要です。ただし、次の表に記載された科目ごとの必要単位を含まなければなりません。

科目区分		卒業要件		
全学 共通科目	基礎 科目 目 詳	基礎ゼミナール	2 単位	130 単位 以上
		情報リテラシー実践	4 単位	
		実践英語 I a,b,c,d・II a,b,c,d	8 単位	
		未修言語科目	8 単位以上	
		理系共通基礎科目	16 単位以上	
		保健体育科目		
	教養 科目 目 詳	キャリア科目		
		都市・社会・文化	16 単位以上	
		文化・芸術・歴史		
		生命・人間・健康		
		科学・技術・産業		
	総合ゼミナール			
	基礎 科目 目 詳	人文科学領域		
		社会科学領域		
		自然科学領域		
健康科学領域				
専門 教育 科目 群	必修科目	8 単位	76 単位以上	
	選択必修科目 A (講義科目群)	26 単位以上		
	選択必修科目 B (実験科目群)	4 単位以上		
	選択科目			
	他学部・他学科・系・コースの 専門教育科目			

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

（1） 専門教育における学習成果の確保のための科目編成・教授法・評価法等の基本的考え方

都市環境を構成する建築及び都市空間を、安全かつ快適で美しく構築する理論及び技術と仕組みを修得するため、建築と都市に関する総合的な教育を行います。また、建築及びその集合である都市空間で構築される都市環境とその活用主体である人間及び社会との関わりを、総合的に理解し評価できる知識と思考能力を養成します。

教育分野は、①建築計画・都市計画、②建築歴史・意匠、③建築生産、④建築構造、⑤建築環境の5つに区分しています。建築および都市に関わるさまざまな諸課題に対して、上記の各分野における基礎的な座学だけでなく、構造実験、材料実験、環境演習、見学演習など実験演習系授業が分野ごとの複数教員で行われ、分野ごとで基礎的かつ先端的な教育を実施します。その一方、建築設計では分野を横断した複数教員が連携しながら総合的な教育を行います。総合的基礎知識と専門的実践の連携を主軸とし体系的に設計されたカリキュラムのもとで、自主的に問題提起し、その問題を解決する能力を養う教育を実践します。

<カリキュラムの特色>

建築都市に関わる幅広い知識を体系的に修得することができるよう、1年次では導入科目、2年次に主として基礎科目、3,4年次で応用・発展科目で構成されています。科目は講義科目と演習・実験科目に大別されており、個人の目的意識により履修できるよう選択必修科目と推奨科目を設けています。特に、演習・実験科目では、どのような建築都市を創るかという創造的な作業を通じ、自ら問題を設定しつつ、説得力のある解答を探り出す能力を涵養する点に重点を置いています。

建築都市コースの学生は、卒業までに以下の知識と能力を修得します。

- (A) 人文科学・社会科学・自然科学・工学全般にわたる幅広い知識・理解
- (B) 技術倫理・環境倫理を理解し、モラルを持って行動できる能力
- (C) 自然科学に対する基礎的学力・応用力
- (D) 建築・都市に関する専門知識
- (E) 専門知識を生かした問題発見・解決能力
- (F) プロジェクト遂行能力
- (G) コミュニケーション能力

(H) 生涯にわたり持続的に学習できる能力

(2) 専門教育における学習成果と授業科目の対応表（カリキュラム・マップ）

(1) で示した「カリキュラム編成・実施の基本的考え方」に基づいて設定された科目と、学習・教育目標の関係を「カリキュラムマップ」に示す。

(3) 全学共通教育における学習成果の確保のための履修要件・履修指導等の基本的考え方

学部 1, 2 年次では「実践英語 I, II」、「基礎ゼミナール」、「情報リテラシー実践」などの基礎科目群合計 22 単位以上（いずれも必修）をはじめ、人文・社会・自然科学など幅広い知識を身につけるとともに、教養科目群・基盤科目群から合計 16 単位以上を必修科目として履修する。

また、建築都市コースの学問（専門科目）を学ぶために必要な自然科学や情報技術に関する基礎的専門知識を修得するため、「情報リテラシー実践」（必修）および数学、物理などの「理系共通基礎科目」16 単位以上を必修科目として履修する。

(4) 年次進行判定

1. 特別研究及び特別研究ゼミナールⅡを履修するためには、建築都市コースの専門教育科目群から 60 単位以上を修得していることが必要である。
2. 2 年次の修了までに総単位 60 単位以上修得していないものは引き続き 2 年次の学生として留年させます。

表1 建築都市コースのカリキュラムマップ

◎必修科目、★教養科目群・基盤科目群のうち、強く推奨する科目、○選択必修科目												
	必修	科目区分・名称	年次	学習・教育目標								
				◎:強く関連、○:関連								
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	
全学 共通科目	基礎科目群	◎ 基礎ゼミナール	1						○	◎		
		◎ 実践英語Ⅰa~d	1							◎	○	
		◎ 実践英語Ⅱa~d	2							◎	○	
		◎ 情報リテラシー実践Ⅰ	1							◎	○	
		◎ 情報リテラシー実践Ⅱ	1							◎	○	
		◎ 未修言語科目	1~2							◎	○	
		◎ 微分積分Ⅰ・Ⅱ	1			◎						
		◎ 線形代数Ⅰ・Ⅱ	1			◎						
	基盤科目群	◎ 教養基礎物理Ⅰ・Ⅱまたは 初等物理Ⅰ・Ⅱ	1			◎						
		◎ 理系共通基礎科目	1~2	○	○	◎						
		◎ 統計学Ⅰ	1	○		◎						
		◎ 統計学Ⅱ	1	○		◎						
		★ 環境と建築	1		○		◎					
		★ 建築文化論	1		○		◎					
◎ 教養科目群・基盤科目群	1~2	○	○	◎	○							
専門 教育科目群	必修											
	◎ 建築設計製図Ⅰ	2				◎	○					
	◎ 建築設計製図Ⅱ	2				◎	○					
	選択必修											
	○ 建築環境学Ⅰ	2				◎	○					
	○ 建築環境システムⅠ	2				◎	○					
	○ 建築構造力学Ⅰ	1				◎	○					
	○ 建築構造力学Ⅱ	1				◎	○					
	○ 建築構造力学Ⅲ	2				◎	◎					
	○ 建築物のしくみ	1				◎	○					
	○ 建築構法Ⅰ	2				◎	○					
	○ 建築材料学Ⅰ	2				◎	○					
	○ 都市計画	2				◎	○					
	○ 西洋建築史	2				◎	○					
	○ 建築計画Ⅰ	2				◎	○					
	○ 日本建築史	2				◎	○					
	○ 建築環境実験	3				○	◎					
	○ 建築材料実験	3				◎	◎					
	○ 建築構造実験	3				◎	◎					
	○ 特別研究ゼミナールⅠ	3				○	◎	◎	○	◎		
	○ 特別研究ゼミナールⅡ	4				○	◎	◎	◎	◎		
	○ 特別研究	4				○	◎	◎	◎	◎		
	選択											
		建築表現演習	1				◎	○				
		建築デザインⅠ	3				○	◎				
		建築デザインⅡ	3				○	◎				
		建築デザインⅢ	4				○	◎				
		建築環境学Ⅱ	2				○	◎				
		建築環境システムⅡ	3				○	◎				
		建築環境設計演習	3				○	◎				
		建築振動学	2				○	◎				
		木質構造	2				○	◎				
		鉄筋コンクリート構造	3				○	◎				
		建築鉄骨構造	3				○	◎				
		建築構造設計演習	3				○	◎				
		建築構造力学Ⅳ	4				○	◎				
		建築材料学Ⅱ	2				○	◎				
		建築生産	3				○	◎				
		建築構法Ⅱ	3				○	◎				
		建築施工管理	3				○	◎				
	建築計画Ⅱ	3				○	◎					
	都市・建築空間解析	3				○	◎					
	都市設計	3				○	◎					
	建築デザイン論	3				○	◎					
	東洋建築史	3				○	◎					

- (A) 人文科学・社会科学・自然科学・工学全般にわたる幅広い知識・理解
- (B) 技術倫理・環境倫理を理解し、モラルを持って行動できる能力
- (C) 自然科学に対する基礎的学力・応用力
- (D) 建築・都市に関する専門知識
- (E) 専門知識を生かした問題発見・解決能力
- (F) プロジェクト遂行能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 生涯にわたり持続的に学習できる能力